

あどけない話

高村 光太郎

智恵子は東京に空が無いといふ、
ほんとの空が見たいといふ。
私は驚いて空を見る。
桜若葉の間に在るのは、
切つても切れない
むかしなじみのきれいな空だ。
どんよりけむる地平のぼかしは
うすもも色の朝のしめりだ。
智恵子は遠くを見ながら言ふ。
阿多多羅山の山の上に
毎日出てゐる青い空が

智恵子のほんとの空だといふ。
あどけない空の話である。

〈出典 『智恵子抄』(新潮社、二〇〇三年)〉

【著者】高村 光太郎(たかむら こうたろう)

一八八三(明治一六)年—一九五六年(昭和三一)年
彫刻家、評論家、詩人。東京都の生まれ。

【著書】『智恵子抄』『道程』『典型』など